

ミラクシーラーEPO

特 長

用 途

■:適用上塗材 ●:適用下地/基材

荷 姿

危険情報と安全対策

標準施工仕様

性能試験成績表

ミラクシーラーEPOは、特殊エポキシ樹脂を結合材として用いた溶剤形二液反応硬化タイプの下塗材です。

1. 各種旧塗膜との密着性に優れています。
2. 浸透性、固着性が高く、下地の補強効果に優れています。
3. 水分や炭酸ガスの浸入を防ぎ、セメントモルタルやコンクリートなどの中性化を防ぎます。
4. 基材の通気性を損いにくく、通気性塗材の下塗りとして使用できます。

■各種仕上塗材の下塗り※、屋根用塗料の下塗り

※高弾性系は使用不可

●各種新築下地の下塗り

コンクリート、PC板、セメントモルタル、押出成型セメント板、スレート板、けい酸カルシウム板など

●各種改修下地の下塗り

各種旧塗膜、窯業系屋根材(薄型塗装瓦、セメント瓦など)

★ミラクシーラーEPO 主剤 10kg石油缶、4kg缶

★ミラクシーラーEPO 硬化剤 5kg缶、2kg缶

(標準塗坪：37~150m²/15kgセット、15~60m²/6kgセット)

製品の取り扱いには、それぞれの安全データシート (SDS) に従ってください。

特に、★印のついている製品は溶剤形のため、P21からの「危険情報と安全対策」をよくお読みください。

(23℃)

材 料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)		備 考
				工程内	工程間	
ミラクシーラーEPO 主剤	100	0.10~ 0.40	1~2	3以上	4以上 48以内	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600~1000ml/分 パターン幅：25~30cm
ミラクシーラーEPO 硬化剤	50					

- ※1. 下地の種類や状態により所要量が変わります。吸い込みの著しい場合などは、2回塗りとしてください。
- ※2. モニエル瓦の場合、スラリー層が残存していると剥離の原因となるため、高圧水洗(10~15Mpa)にてスラリー層を完全に除去し、下地が濡れ色になるまで塗装し、下地をしっかりと補強してください。
- ※3. 調合は所定の割合を厳守してください。また、混合後の材料は、可使時間(5時間)以内に使い切ってください。
- ※4. 主剤と硬化剤は混合不良を生じるおそれがあるため、電動ミキサーを使って2分以上攪拌してください。
- ※5. 希釈しますと付着力や性能低下などの原因となりますので、希釈は絶対にしないでください。
- ※6. 改装工事に使用の場合は、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。

部 位	下地の種類	所要量 (kg/m ²)	塗回数
一般建築壁面	押出成型セメント板、GRC板、PC板	0.10~0.13	1
	コンクリート、セメントモルタル、フレキシブルボード、けい酸カルシウム板	0.15~0.20	1~2
一般建築屋根	薄型塗装瓦(コロニアル、カラーベストなど)、スレート屋根	0.15~0.25	1~2
	モニエル瓦	0.20~0.40	2

※被塗物の形状および劣化の程度により所要量は異なりますのでご注意ください。

JASS 18 M-201 反応形合成樹脂ワニス(2液形エポキシ樹脂ワニス)による物性結果

項 目	結 果	品 質
透 明 性	合 格	透明であるものとする。
ポットライフ(可使時間)	合 格	3時間で使用するものとする。
塗 装 作 業 性	合 格	はけ塗りで塗装作業に支障があってはならない。
乾 燥 時 間	合 格	16時間以内
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常であるものとする。
耐 水 性	合 格	水に浸しても異常があってはならない。
耐アルカリ性	合 格	アルカリに浸しても異常があってはならない。
上塗り適合性	合 格	上塗りに支障があってはならない。
加 熱 残 分	合 格	20%以上

注 意 点

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート (SDS) に従ってください。

本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照ください。

- 光触媒コーティング、無機系コーティングなどが施されたサイディングボード面、無塗装板などには、下塗材として水性ハイブリッドシーラー、★エスケーハイブリッドシーラー-EPOをご使用ください。
- 経年劣化したサイディングボード面への塗装は、表面劣化部分から剥離する場合があります。試験施工を行って付着性を確認の上、本施工に入ってください。
- 光沢が残っているなど劣化していない塗膜に塗装する場合は、目荒しを行ってください。
- ALCパネル、多孔質下地、粗面、その他、下地に問題がある場合には、カケンフィラー（粉体/20kg袋、混和液/10kg石油缶）、またはミラクフアンドKC-1000（粉体/20kg袋、混和液/5kgポリ容器）などで下地調整を行ってください。なお、改装工事には、ミラクフアンド各種をご使用ください。
- 下地がコンクリートの場合には、付着物などを除去し、下地をよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10以下としてください。下地が雨や結露などで濡れている場合は、十分に乾燥を行ってください。
- やに・あくが付着している場合は、中性洗剤など（やに・あくが著しい場合は、アルカリ性洗剤など）で拭き取った後、予めSK水性ヤニ止めシーラー（15kg石油缶）を塗付してください。
- 二液反応硬化タイプの材料は、主剤と硬化剤を指定の比率で調合し、電動ミキサーで攪拌混合してください。特に小分けでご利用の場合は、計量器にて計量を行ってください。混合後の材料は、缶に表示の可使用時間以内に使い切ってください。また、可使用時間は温度、希釈などの条件によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合したりすると、性能低下につながりますので、絶対に避けてください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改装工事に溶剤形の材料をご使用の場合、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- かび、藻が付着している場合は、「SKKかび除去剤#5（塩素系）」にて拭き取るなど、適切な下地処理をしてから塗装してください。
- 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
- 塗り重ね時間は環境（温度、湿度、換気、風通しやすさ）や膜厚によってかわります。
- 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなります。風通をよくし、十分に乾燥養生を行ってください。
- 補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
- シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類や材齢により塗膜が密着しないことがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせください。
- 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異状を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行ってください。
- 基材の洗浄に薬剤を用いる場合、薬剤洗浄後の水洗工程を入念に行ってください。薬剤が被塗面に残在したまま塗装すると塗膜の膨れ、剥がれ、白化につながる場合があります。
- 溶剤形、弱溶剤形の下塗材は、ゴムやプラスチック等、可塑性を含む部位に直接接触すると軟化や剥離を生じることがありますので、そのような場所への塗装は避けてください。また、これらの部位に塗膜が直接接触することのないようご注意ください。
- 塗膜の膨れ、剥がれ、白化、しみの発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- 強風時または降雨、降雪のおそれがある場合及び温度5℃以下、湿度85%以上の時は、原則的に施工を避けてください。施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所にて保管し、できるだけ早めに使い切ってください。
- 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。
- 荷姿に記載の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。
- 各仕上塗材とのJIS表示における組み合わせについては、各仕上塗材のパンフレット等をご参照いただくか、最寄りの各営業所へお問い合わせください。

危険情報と安全対策

すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。

各種共通

- [応急処置]
 - 蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。その後、医師の診断を受けてください。
 - 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。
 - 眼に入った場合は、清浄な水で十分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けてください。
 - 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗ってください。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けてください。
- [廃棄]
 - 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収してください。
 - 廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。
 - 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。
 - 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないでください。
- [保管及び取り扱い]
 - 容器を密封し、凍結・直射日光を避け、5～40℃の乾燥した換気の良い場所、及び部外者や子供が入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管してください。
 - 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり、危険です。(製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照してください。)
- [安全衛生]
 - 製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照してください。また、安全データシート(SDS)もご参照ください。
 - 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- [施工後の注意]
 - 本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

溶剤形塗料

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
 - 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ご使用の場合、使用機器(電気機器／換気装置／照明機器／工具等)は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [安全衛生]
 - ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

硬化剤

硬化剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
 - 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ご使用の場合、使用機器(電気機器／換気装置／照明機器／工具等)は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

- [安全衛生]
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗ってください。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
 - ⑤ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - ⑥ 液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理してください。
 - 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

希釈用溶剤

希釈用溶剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [安全衛生]
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ③ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

水性塗料

- [安全衛生]
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
 - 水性塗料（荷姿に★印のついていない製品）の取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所は換気をしてください。
 - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。